



menu

- ◎地域を元気にする活動、支援します!
- ◎日南トマト選果場を改修し、新たなスタート
- ◎新人職員 農林家研修体験記
- ◎令和5年度 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰
- ◎冬の道路は危険がいっぱい/日野郡の除雪のあゆみ
- ◎日野郡で輝く人(江府町)光島宏美さん
- ◎蜜蜂を飼育される方へのお知らせ

地域を元気にする活動、支援します!

—県の補助金を使った活動事例紹介—

地域を元気にする活動に活用できる補助金にはさまざまなものがあります。今号では、その一つ、「令和新時代創造県民運動推進事業補助金」を活用した日野郡の事例を紹介します。

活動に弾みをつけて、発展させたい

「黒坂フェスタの会」(日野町)の場合

旧黒坂小学校や黒坂駅周辺で毎月開催されているイベント「黒坂フェスタ」をご存じですか。黒坂にUターンしてきた代表の梅林敏彦さんが自分の少年時代から比べると活気が激減した地元を再び盛り上げようと食べ物や屋台を招いたり、体験イベントなど様々な企画を実施されています。

令和元年にスタートアップ型を活用して初開催された黒坂フェスタですが、コロナ禍もあり、人の集まるイベントを不定期で開催するのがやっとでした。しかし、地域を盛り上げるためには、地域の人に黒坂フェスタを知ってもらうことが必要と思い、活動に弾みをつけるべく、令和4年度は「ステップアップ型」にチャレンジされました。

その結果、認知度も飛躍的に高まり、地域外からも多くの人々が訪れ、賑わうようになりました。

また、この補助金を使った先進地の視察に日野高校の寮生らが参加し、それをきっかけに地域づくりに取り組むグループ「みらいず」を作り、高齢者向けのスマホ教室の開催など、地域に飛び出していています。

今年度は「みらいず」が同じ補助金の「若者チャレンジ型」に挑戦し、黒坂フェスタに出店するなど、少しずつですが黒坂フェスタを手伝ってくれる人が増えていています。

この活動には課題もありますが、子どもから高齢者まで多様な人の居場所となっていますので継続が望まれています。



▲9月開催の黒坂フェスタ。屋外の各飲食ブース。晴天で賑わいもさらにアップ。



▲体験コーナー「出前かにっこ館」でサメに触れる子どもたち。

それさえクリアすれば、活動の第一歩が踏み出せる…!

山での暮らしを楽しむ有志団体「山ラボ」(江府町)の場合

昔、江府町柿原集落は竹の炭焼きが盛んだっけれど、今は高齢化や産業の変化で行わなくなった…。その結果、手の入っていない竹林が目立ってきたので、どうにかできないだろうか…。

そこから、竹の活用をはじめ、山での暮らしを楽しむ有志団体「山ラボ」が結成されました。自分たちが活動するだけでなく、柿原に興味のある地域外の人々とのつながりも広げ、この土地に住んでよかったと思ってもらえるような活動をしたい…!と。

竹を活用するために山ラボが作るものの一つは、メンマ。ゆくゆくは貴重な国産メンマとして利益を出して、竹林整備をしながら循環していく仕組みにしたいと考えています。そのためには、まずは少量でも継続して生産し、地域にも受け入れられることが大事です。

そして、メンマを食べてもらうには、なんとといってもラーメンが一番!
でも、ただラーメンを作るだけではおもしろくない。そうだ、竹でラーメン屋台を作り、懐かしいチャルメラの音楽とともに集落のみなさんに届けよう!

しかし、まだ収益が出ていない取組なので、補助メニューのうち「スタートアップ型」を活用し、屋台づくりに使う機械のリース代、指導者への謝礼、のぼり代などを賄いました。

完成した屋台は今後も長く使えますし、地域での存在感もアップしていけば、盛り上げに協力してくれる人も増えそうです。

(地域の人が天ぷらやいならずしを作ってください、手先の器用な人がラーメン調理係のためにおそろいの帽子を作り、みんなで楽しむイベントになりました)



▲完成した屋台



▲みんなでメンマづくり



▼すべての作業後、みんなでメンマ入りラーメンをいただきます。(緑側に屋台が見えます)

日野振興センターから、日野郡の日常や観光情報を発信しています!!
日野振興センターのブログ「日野ごよみ」



日野振興センターのホームページ内でブログを公開しています(不定期)。日野郡の日常のできごと、イベント、興味深い活動の紹介など、内容は様々! これを見て、日野郡に遊びに来てくださった県外の方もいます!

みなさんからの題材の参考になる情報や感想もお待ちしています。

電話 0859-72-2086(日野ごよみ担当)

電子メール hino-shinkou@pref.tottori.lg.jp



地域づくりのために何か始めたい、これまでやってきた活動を充実させたい…この補助金では、地域活性化をめざす活動のスタートや、その発展・継続をめざす取組を支援しています。 ※今年度の募集は終了していますが、来年度の活用に向け、ご検討ください。

日野振興局では、経費支援のほかにも活動への助言・相談対応を行っていますので、「最初の第一歩を踏み出したい」、「あと少しでグンとよくなるのに…」といったお困りごとがあれば、気軽にご相談ください。

相談窓口はコチラ➡ 日野振興局 地域振興課 中山間地域連携担当

電話:0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

②選別レーンの延長・箱詰めレーンの増設

今までは選別・箱詰めレーンが十分に確保できず、作業が滞ることがありましたが、レイアウトを変更し、必要なレーンを増設したことで効率的に作業できるようになりました。

③外観判定カメラの工事(赤外線ランプ→LED照明)

赤外線ランプをより明るいLEDランプに変更することで、選果の判定能力が向上しました。

また、休憩室やトイレも改修され、作業員の方が働きやすい環境になりました!



選果後のトマト



日南トマト選果場



改修後の休憩室

新人職員 農林家研修体験記



【ビニールハウス内の作業】
病害虫の発生源になる古い下葉はハウス内に残さないことが重要です



【月払圃での草刈り】
水田への雑草侵入や病害虫の発生を防ぐためにこまめな草刈りが大事です

研修では8時から17時まで、主にトマトのビニールハウスの管理作業と水田の畔草刈りを行いました。ビニールハウス内では下葉かき(古い下葉を切り落とす作業)後の葉を廃棄する作業を行いました。1棟ずつハウスを回って運び出し、13棟の作業を終えたときには汗で全身びしょ濡れになっていました。「トマトは細かく面倒を見ないといけないから大変なんだ」と様子見にいられた専務の言葉が印象的でした。畔草刈りは刈った草を水田に落とさず、散らかさない技術が求められます。社長や従業員の方にやり方を教えていただいた際に、「一番のコツは回数と慣れだ」とおっしゃっていて、スムーズな仕事には毎日の経験が大切なのだと思感しました。農作業を実際に体験して、農業は体力も知識も経験も必要で、本当に大変な仕事だと学ぶことができました。この経験を活かせるよう、「農家の立場に立つこと」をより一層意識してこれからの普及活動に取り組んでいきます。改めて、株式会社エイトのみなさま、ありがとうございました。

〈学んだこと・感想〉

8月21日～8月23日の3日間、日野郡特産野菜のトマトと水稲の複合経営をしている法人で、農家が現場で実際に行っている作業を体験し、農家の生活を学ぶことを目的に研修させていただきました。

〈研修先〉

株式会社エイト(日南町阿尾線1224・1)

日野農業改良普及所 改良普及員 千代西尾 伊織

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2027 FAX:0859-72-2090

日南トマト選果場を改修し、新たなスタート

～AI(人工知能)判定システムを導入!～

日南トマトは収穫後、選果場で共同選果されて岡山・広島・県内などの市場に出荷されています。安定した品質が非常に高く評価されていますが、AI導入により選果基準の維持と更なる向上も期待されています。

令和5年は昨年を上回る好調な販売が続いています。生産部の目標である反収10tおよび販売額2億円の達成に向けて、関係機関一同で生産者のみなさんをサポートしていきます。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2025 FAX:0859-72-2090

日南トマトとは

- 昭和46年に栽培開始され、50年以上の歴史があり、現在は生産者40名、5.35haで栽培されています。
- 標高400～600mの準高冷地で栽培され、朝晩の寒暖差を活かすことでトマト本来の甘み・酸味・香りを強く感じることができます。
- 平成27年に地域団体登録商標を取得し、「日南トマト」のブランドで販売しています。
- 高齢化の影響で、生産者・栽培面積の減少が続いている半面、町の農業研修生制度を利用した新規就農者も増え、世代交代が進んでいます。
- 近年収量は増加傾向にあり、昨年(令和4年)は過去最高平均収量9.6t/10aを達成し、販売額も過去3番目の好成績(1.87億円)となり、生産者の技術向上が進んでいます。



栽培期間中のトマト

選果場の改修内容と効果

①等級別(トマトの品質や大きさ)判定にAI判定機能を導入

細かなトマトの品質を見極める熟練の作業員が高齢化し、人による選果基準のばらつきや選果効率の低下が心配されていました。そこで、AIによる自動判定機能を導入することで選果基準を均一化でき、熟練作業員に頼らなくても厳格に選果できる体制としました。

※AI判定システムの本格運用のためには数年間のAIの学習(データの蓄積)が必要であり、現状でも着色度合、形状、重量等は判別が可能です。病害虫跡・裂果の程度については、引き続き人が判別して基準等をAIに覚えさせています。

そのため、実際にAIによる自動選果ができるようになるのは令和6年以降の予定です。



熟練の作業員がトマトの細かい品質を見極め、等級別に仕分ける様子



AI判定システムがトマト1玉1玉の色、形、重さを瞬時に判別



冬の道路は危険がいっぱい

～雪道での立往生にご注意ください～

みなさんへのお願い

- 雪道を走行するときは、**冬用タイヤの装着とタイヤチェーンの携行**をお願いします。
- チェーン着脱場(下図参照)**をご利用ください。
- 特に峠付近など山間部の路面状況は急激に変化することがあります。路面状況はとっとり雪みちなビでご確認ください。(http://yukinavi.net.cache.yimg.jp/index.html)



【山間部の路面状況の変化】



日野郡の除雪のあゆみ

～三八豪雪から60年～

今から60年前の昭和38年の冬、中国山地や日本海沿いを未曾有の豪雪が襲いました。通称「三八(サンパチ)豪雪」。日野郡においても、道路が寸断され、家屋の全半壊や孤立集落が発生するなど大変な被害となり、自衛隊による除雪や救援物資投下が行われました。

三八豪雪の教訓を受け、同年12月に県(根川土木事務所)を事務局として日野地区除雪対策協議会が立ち上げられ、降雪期における円滑な輸送体制を確保するため、関係機関での相互調整や対策が協議されることとなりました。同協議会は60年経った今日も連絡として継続しており、除雪シーズン前には、自治体や警察、気象台、インフラ事業者等による協議会が開催され、除雪の効率化や豪雪時の優先除雪路線の選定、交通障害箇所への対応、ライフライン確保のための連携体制等が協議されています。



旧国鉄 原根駅前の道路
(日野町原根地内)



自衛隊機からの救援物資投下を持つ住民
(日野町久住地内)

【三八豪雪の写真】



自衛隊ブルドーザーによる道路除雪
(江府町西町・下敷屋地内)



除雪後の道路
(日野町下河原地内)

問日野県土整備局 維持管理課 電話:0859-72-2047 FAX:0859-72-2092

令和5年度 鳥取県優秀経営農林水産業者等表彰

鳥取県では、県内農林水産業の発展並びに、その技術及び経営の改善意欲の高揚を図るため、毎年模範となる優秀な農林水産業者を知事表彰しています。

令和5年度は、6部門において33経営体・組織が受賞され、10月24日に鳥取県庁講堂で表彰式典が行われました。日野郡内の受賞者を紹介します。



優秀経営農林水産業者部門

株式会社グリーン・シャイン(林産:日南町三栄 代表取締役 平田 広志)

株式会社グリーン・シャインは、日南町で素材生産に意欲的に取り組む林業の会社です。早くから作業現場に適した林業機械の導入や日報管理、人材育成に力を入れ、作業効率や生産性の向上に努め、その結果、素材生産量を増加させ、皆伐再造林の推進にも大きく貢献されている点が高く評価されました。



受賞者コメント

弊社では10年前から会社と社員とのコミュニケーションを改革改善し、雇用管理の改善及び経営力の強化を実現するための仕組みづくりとして能力評価システムを導入し運用しています。

この取組を行ったことで社員は自分の業務をより深く理解し、意欲の向上に繋がりました。

社員自ら、日々作業の効率を上げるための工夫ができないかと考えるようになり、日報を分析して翌日の作業に反映させる仕組みを完成させました。

今後もデータの蓄積と分析精度の向上に努め、現場ごとに適切な作業体制を整え、素材生産などの森林整備をより一層進めていきたいと考えています。



未来を担う青年農林水産業者部門

小谷 一起さん(酪農:日野町小河内)

小谷さんは親元就農後、牛のストレスを少なくすることで良質で安定した牛乳生産に努めています。さらに町の堆肥散布事業に堆肥を供給し、循環型農業に寄与するなど、先進的な酪農経営に取り組まれている点が高く評価されました。



受賞者コメント

私は平成27年に父のもとで親元就農し、令和4年から経営を引き継ぎました。今は父、母と一緒に働いています。

就農後は、暑さ対策として大型の換気扇を導入したり、昔より大型化している乳牛のために牛舎内のベッドを大きくしたりすることで、牧場が牛たちにとってより快適な状態になるように努力しています。それは結果として乳質や乳量の向上につながっています。近年は飼料・燃料費の高騰など大変なことも多いですが、牛たちは手をかけた分、返してくれることに日々やりがいを感じています。

令和2年から町事業への堆肥提供を始めました。循環型農業の一助となればと思っています。

「1,000人では活力が足りない、でも1万人では多すぎて顔が見えない…江府町は3,000人の住民に関係人口を加える余裕がある、活動するのにちょうどいい規模」

こう語るのは、今回ご紹介する光島宏美さんです。

作業療法士としてマレーシア・ボルネオ島で青年海外協力隊活動に参加後、岡山県新庄村で、ほぼ自給自足の暮らしをしていました。おもしろいことがあるところへ行きたいという挑戦者精神があり、人と人を結ぶのが好きだという光島さんは、江府町の知人から誘いを受け、地域プロジェクトマネージャーに応募し、昨年からお家族で移住してこられました。

おもな担当業務は、SDGsの推進。その一つとして奥大山自然塾のインストラクターもしています。

富良野自然塾と連携した奥大山自然塾は、休止中の奥大山スキー場をフィールドに参加者が自然の大切さを「教わる」のではなく「五感で感じる」プログラムです。光島さんの際立つキャラクターが活きた進行も、好評だそうです。

「江府町は、おすそわけや助け合いといった、伝統的なパートナーシップがある半面、新しい取組にも積極的な『ほどよい田舎』。これからの人間の暮らしのあり方を考える拠点になると思います。この町では自分のキャラクターをフルに使い、町の人は優しく、しかもマレーシア人の夫の故郷の景色にも似ていて…ここには来るべくして来た、と感じています」と、光島さん。今後に乞うご期待です！



▲中学生が参加した奥大山自然塾でインストラクターをつとめる光島さん



▲地元のフェスの一場面(光島さんは左から二人目)。すっかり町になじんでおられます♪

同日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

蜜蜂を飼育される方へのお知らせ

蜜蜂を飼育される方(趣味の養蜂を含む。)は、養蜂振興法の規定により毎年1月31日までにその年の「蜜蜂飼育届(1月1日～12月31日の飼育計画)」を県に提出する必要があります。(詳しくは、鳥取県公式サイトとりネットの養蜂関係ページをご確認ください。)

<https://www.pref.tottori.lg.jp/66459.htm>

日野郡にお住まいの方は日野振興センター農業振興室(2階)に提出してください。
また、手続き等についてご不明な点がございましたら、下記の問合せ先にご連絡ください。



提出先・問合せ先 同日野振興局 農林業振興課 農業振興室 電話:0859-72-2004 FAX:0859-72-2011

表紙
写真

【タイトル】林業に希望を 【撮影者】日野町 松本利秋

【撮影者コメント】日南町は林業が基幹産業の一つ。将来の林業の担い手を育成するため、全国初の町立林業学校として「にちなん中国山地林業アカデミー」を平成31年に設立。町内をはじめ全国から入校し、今年は5期生。受講生たちの真剣な姿は林業の希望です。みんな、がんばれ!